

2022 フクシマ連帯キャラバン

3.12-3.14 行動



あれから11年！原発事故は終わっていない！

schedule

- 3.12** ★2022 原発のない福島を！ 県民大集会
★フクシマ連帯キャラバン結団式
- 3.13** ★あれから11年！ 原発事故は終わっていない 3.13 アクション
★被災地フィールドワーク
- 3.14** ★いわき市、福島県への要請行動

3月11日、東日本大震災、福島第一原発事故から11年が経ちました。特定復興再生拠点区域との名目で解除される帰還困難区域、処理水の海洋放出問題、進展しない燃料デブリの取り出しなどに対し、8回目となるフクシマ連帯キャラバンを福島県内で3日間行いました。



2022 フクシマ連帯キャラバンを終えて

東北地方青年婦人部 部長
薄井 栄人

福島第一原発事故から11年の時が経ち、徐々に復興も進み事故の爪痕が人々の記憶から薄れている今だからこそ、現地で今何が起きているのか、問題を再認識することを学ぶことができました。若い世代の我々が先頭に立ち、これからの未来の向けて闘っていく強い意志を持ち、我々ができることを仲間と団結して全力で行動していきたいと思います。

東北地方青年婦人部 書記長
武田 陽介

現地の風景は徐々に変化し、整備された街並みは「復興」という言葉で取り上げられていますが、それは被災地のほんの一部です。原発事故は福島だけではなく、今後全国で起こりうる重大な問題だと改めて痛感することが出来ました。風化をさせない、そして「核と人は共存できない」ということを、今後も広めていけるよう行動していきたいと思います。

八戸支部青年部
沼田 祥毅

震災当時自分は学生でした。正直、遠い所で起こっている災害だと参加するまでは思っていたのですが、復興とは、目に見えるものではないのだと思いました。家が立った、道路が綺麗になった、それでも大事な人が居ない事その土地にとっては何も無いのと同じ事になるのではないかと感じました。



小名浜支部青年部
渡邊 健也

11年経った現在、復興と共に風化し始めていることに気づきました。キャラバンで学んだことが無駄にならないように原発がもたらした大変な被害を若い世代に分かりやすく、興味をもってもらえるような行動をしていきたいです。

八戸支部青年部
夏堀 陸

私たちの行なっている行動はもしかしたら微力ではあるかもしれませんが、決して無力ではないと思っています。全港湾が力を合わせて行動すれば必ず今よりも大きな力になります。そのためにもフクシマ連帯キャラバンを全国的に広められるように、これからも頑張っていきたいと思います。

小名浜支部青年部
齋藤 直道

本当の復興とは、仲良かった友達にすぐ会いにいけ、困った時は近所の人々が助けてくれる環境が本当の復興だと思いました。原発事故は一瞬でふるさとを壊してしまい、二度と起きてはならない事故だと改めて実感しました。



ひたち支部青年女性部
藤枝 知博

フクシマ連帯キャラバンという運動の偉大さを痛感しましたが、それでもなお、原発推進の波は押し寄せてきています。一刻も早い脱原発社会を実現するため、より一層の団結をもって闘っていききたいです。

ひたち支部青年女性部
加藤 綺純

私の住んでいる地域では、原発事故を実感することは難しく、安易な考えを持っていました。しかし、被災地フィールドワークで、実際に現地を見て私の安易な考えを覆す、とても悲惨なひどいことが起こっているのだと実感しました。

